

平成 28 年 5 月 16 日

岸和田市産業活性化推進委員会 会議録

日 時 平成 28 年 5 月 16 日（月）15:00～16:50
場 所 岸和田市立産業会館 集会室
出席者 （委員）
藤田副委員長 石田委員 伊藤委員 入野委員 植野委員 浦山委員
川島委員 杉本委員 傳野委員 中井委員 永谷委員 永野委員 松下委員
（事務局）
津村部長 稲岡理事 池内課長 和田商工振興担当主幹 田中参事
田中主査 山瀬主任 中浜参事（観光振興担当） 原農林水産振興担当主幹

協議内容

（事務局） 資料説明 資料 1 ～ 3 産業振興新戦略プラン【改定版】について

（副委員長） 今、ご説明いただいた中で、ご質問、ご意見を頂きたい。

（委 員） ワーキンググループはどのように開催するのか。座長などを決めるのか。

（事務局） こちらで日程や場所を決めさせていただいて進めていこうと思います。座長についてもこちらで検討したうえで、グループのメンバーに案内をお送りいたします。

（委 員） 大阪府でも予算要求をするときに、施策シート一覧表のようなものを作って、実績を評価しています。このシートの右側には平成 26 年実績、平成 27 年実績とありますが、この数字が重要だと思います。たとえば、企業誘致の件数が 10 件と書かれていたりしますが、岸和田市の場合にその数値の評価がしにくい。ここでいうと、異業種交流会の開催回数の 3 回というのが、多いのか少ないのか、もしくは良いのか悪いのかがわからない。ワーキンググループでは、その理由ややり方を考えていくという解釈でよいのでしょうか。

（事務局） そのように考えています。

（委 員） ここの評価が難しいところです。たとえば、あまり件数がなくて、1 件あれば満足である場合もあるし、2 件から 4 件に増えたので○になるという評価もある。学校での評価のように 5 段階になるのか、あるいは、○や△になるのかなど、共通の評価を考えていく必要があると思います。

(副委員長) 評価の指標に関しては、後ほど相談するとして、まず、その他のご意見をいただければと思います。

(委員) 紙の資料ですと、説明する箇所についていくのに必死になってしまうので、モニター等に映像を映すなどして説明いただければと思います。

(委員) 質問と言われましても、何を求められているのかがわからない。私に知識のない分野について質問するにも、他の委員に失礼だと思います。

(委員) 私もその意見に賛成です。議事進行の目的。我々に何を期待しているのか。指標の取り方については後でと言われたので、どうしようかなど。

(副委員長) それぞれ得意な分野で意見をいただければよろしいかと思います。

(委員) 取組概要などは決まっているので、それについて今更意見は言えないかと思っています。

(委員) 広範な範囲でおっしゃっておられるので、わかりにくいという点があると思います。また、2点目として、予算のつき方が偏っていると思います。この辺がどのような経過でこうなったのかというのを教えていただきたい。ワーキンググループのBに多く予算がついていて、AとCにはそれほどついていないという点を教えていただきたいと思います。意見についてですが、個別のところ、みなさんの見識があるところを述べてもらえるのが一番いいかと思っています。役所の仕事について、予算がついているものについて、説明していただきたいと思います。

(事務局) 予算についての質問と、施策が広範な範囲に広がっていてわかりにくいというご質問をいただきました。まず、各施策については広範囲に渡っておりまして、ワーキンググループで揉んだものを次回の委員会に提出する予定です。そして、整理された形でご意見をいただきたいと思います。次に、予算の部分についてですが、産業振興新戦略プランについては、まず取組概要があって、そこに産業政策課等の予算を当てはめて記載しております。基本方針5の産業の魅力発信について、予算額が大きいというのがありますが、商店街の振興事業であるとか、観光、農林水産業、港湾など多岐に渡っています。そのため、予算が大きくなっているということがございます。

(委員) 冒頭に委員がおっしゃったように、目的にあった実績の指標をとるべき。たとえば、基本方針の1で異業種・同業種交流会の促進の指標について、開催

回数を増やすのが目的ではない。この目的は参加者を増やすことです。その次の指標も出席回数になっている。職員が自ら仕事をしたことを報告しているようなもの。出席の目的をどこに置くのか。施策にあったデータの取り方をお願いしたい。ワーキング開催前に何をフォローすればいいかを吟味して臨まないと、また同じ結果になる。目的にあったデータの取り方を吟味してもらいたい。

(副委員長) 評価項目、指標と併せて昨年度実施してきた施策について、この指標はどうかなどあればお願いします。

(委員) 新規事業に真剣に取り組むとなったときに、役所の人々は予算がありませんなどの簡単な言葉で流さないでほしい。私たちも真剣に考えています。ここで答えを出した場合に、本当にそれを受けてもらわないと意味がないと思っています。

(事務局) ご意見ありがとうございます。新規事業もありますし、既存事業見直しもあります。私どもも真摯に受け止めて、前に進める形で努力していきたい。担当部のところで、努力して前に進めようとしても、なかなかいろいろな事情で進まないこともあります。ご意見いただいたことを、ひとつひとつを真剣に受け取って進めていきたいと思えます。

(委員) 評価の仕方についてみなさん意見が多少あると思えます。異業種・同業種の交流の推進というのは誰が見ても難しい。評価のしようがない。それなら、ワーキンググループが外部委託なりして投げかけてみたらいい。成果なり考え方なりが出てくれば、それを掲げるというやり方もあります。回数や出席者数であるのは、みつけにくい課題がたくさんある。その課題をみんな均等にするというのは、役所の仕事で仕方のない面があると思えます。予算にばらつきがあるということは、やりやすいものも、やりにくいものもあるということだと思えます。やりやすいものから成果をあげていく。やりにくいものは後で何らかの方法を考える。選択をするというのも推進する方法のひとつだと思えます。産業振興ですので、いろんなやり方があると思えます。均等にしなくてもいいという考え方でもいいと思えます。とはいっても、それぞれの立場があるので、言いにくいこともあるかと思えます。和気あいあいとはいかないまでも、前へ進めるためにいい方策を認めて欲しいと思えます。

(事務局) ご意見ありがとうございます。選択と集中ではありませんが、進みやすいところを重点的に進めていくということも当然必要なことです。ただ、進みにくい事業であっても岸和田市にとって必要な事業であれば、そこにも軸足を置いて進めるということも必要ではあると一方では思っています。優先順位

付けにつきましても、ご意見いただきながら進めていきたいと思ひます。

(委員) 議論が少し進んでいるなというのを感じました。指標を見返すときに、実施した回数を書いてしまいます。しかし、たとえば企業誘致のことであれば、雇用がどれだけ増えましたか、出荷額がどれだけ増えましたか、面積がどれだけ埋まりましたかというのをここで評価する必要があります。最終的にたとえばA、B、Cそれぞれから案が出てくるとすると、いい案を選ぶときに優先順位を決めることが必要。市として優先順位を決めるとき、産業政策においては、雇用がまず一番に来ると思う。その次に出荷額。というのは税収に関わるから。次に工場がいいのか、研究施設がいいのか。というのも、それによって固定資産税が変わります。そういうところを行政として何を求めているかを決めていただく必要がある。それが決まれば、A、B、Cが出てきたときに、どれが一番効果があるか、もしくは効果が見えなくても、おそらくにぎわいが増える。交流人口が増える。要は、ここにある指標のもうひとつ上の指標を示してもらひする必要があります。

(副委員長) 先ほど件数(評価指標)に関して言ひますと、市と和歌山大学との連携では、数字になじまないものについてはコメントを付すという形で併用しています。評価シートについて、回数がいいかどうかというのは検討の余地があります。コメントをつけることで対応していけばもう少し話がわかりやすくなると思ひます。もう一点、岸和田の産業政策として何を指すのかというところで、行政として進めるべきものと、政治として進めるべきものがある。何を指すのかというところがあつての政策。その摺り合わせをどうするか。結果として指標の何がいいのかを併せてご検討いただきたい。それから、指標の評価の仕方ですが、それをどうするかをご意見いただければと思ひます。先ほど○△×や5段階という方法もありましたが、いかがでしょうか。

(委員) どういう評価であるかというものは、ワーキンググループであることではないのですか。

(副委員長) 仕方を決めるだけであつて、共通で評価することが必要になる。たとえば、○△×で評価するなどはここで議論してもらひたいということです。

(委員) 私は施策の目標に応じた指標が必要だと思ひますから、共通の評価の仕方というものは逆におかしくないかと思ひます。それと、ここの役割とワーキンググループの役割がどう違うのか。そのあたりを整理していただかないと。評価も目的に応じた評価をしてほしい。それでなければせっかく苦勞してやったことがどうなのか。優先順位付けにしても、一律の形で考えていくとまた同じようになる。優先順位を考えたときに予算の関係も出てくる。もう少

し我々が意見を言いやすいように進めてほしいと思います。

(副委員長) 共通の評価の仕方はなじまないということもあります。8～9月にこの委員会を開いたときに、それぞれのワーキンググループでこういう評価をしたという説明をいただくことになる。それでよろしければ、それでもいいとは思いますが。あと、この委員会とワーキンググループの役割分担についてですが、ワーキンググループはこの会議の下に入るものです。こちらが親委員会となると、全体を掌握ないし承認する場ですので、個別具体的なものについては、結局ワーキンググループでなされるべき仕事。あくまでこの場では俯瞰した状態で意見をお出しいただくことになってくる。そうするとまた意見を言いにくくなるかもしれません。ある程度重複する部分もあると思います。そこはお含みいただいてご意見いただければと思います。ですので、歯に衣着せぬご意見はワーキンググループの方で出していただければいいと思います。

(委員) 先生が先ほどおっしゃっていたことは全体を俯瞰してということですが、ここに来ている人はそれぞれの産業の代表ですので、ちょっとその辺が違ふと思います。先ほど専門的な意見を言ってくださいと言っておきながら、全体を俯瞰してくださいというのはちょっと難しい。ここに来ている人は実際の自分の事業に立脚してものを考えています。ところが、産業のためにどうですかと言うから多少かみ合わない。自分たちの産業の発展のためにどうすればいいかを考える。人口が増えたらどうですか、就業人口が増えたらどうですかというのは行政の考え方です。その辺は分けて考えないといけない。我々も就業人口の増加は結果的には望みます。しかし、それぞれの事業体の発展のために考えるのは第一義。その中で調整は必要です。どうしても考え方の基本が違ふというのが本来の姿ではないか。だから評価に関する共通項は生まれにくい。役所の人は回数、人数といますが、我々にとったらそれって実効あるのかということになります。

(事務局) この委員会には各専門機関の方々がいらしていると認識しております。その部門について一番知識もあって、いろんなお考えもお持ちなので、この場でご教示いただきたいと思っています。もちろん、市にとってどうなのかという視点もお持ちになっていただいていると思っていますので、エキスパートの方々のお力を結集して、市の全体像を作っていくために、この委員会でご意見をお願いしたいと思います。ただ、どうしてもその分野に特化したご意見になっても構いません。事務局としてはそれも踏まえて進めていきたいと思っています。

(副委員長) ある程度時間も経ってきました。この場で検討するのが難しいことも出てき

ています。一旦、ワーキンググループで揉んでいただいたうえで、もう一度秋口に再度集まって検討しようと思いますが、いかがでしょうか。

(委員) 鉄工金属団地代表理事の植野です。私事に近いのですが、この場を借りて申し上げたいことがあります。今年、鉄工団地が50周年を迎えます。鉄工団地の入口に防潮壁があり、どうしてもそれがブラインドになって見えにくくなっています。そのため知名度がおろそかになっているように感じています。そこで50周年事業として、玄関口にあたる防潮壁を一部開放して、そこにモニュメントを立てて、残った防潮壁にペイントをしたうえで、環境良くすることと美化も含めて進めよう思っています。予算を立てたところ、総予算2,000万円のうち1,500万円を鉄工団地で負担し、残り500万円を近隣企業や各種団体に協賛いただいた。商工会議所、春木漁協にもかなり協賛いただいた。ところが、市は行為を進めるためのわずらわしい部分については協力していただいたが、協賛的なことは何もない。プール利用度高めるためとか、美化の部分であるのに。防犯カメラの設置代は負担してくれるらしいが。私がたまたまこの委員に選ばれて、市の活性化に役立つことはないかと考えたときに、50周年事業という大義をもって、自分ところができる美化と環境整備に役立てればよいと思っていた。しかし、民間が何かをしようとしたときに、市のサポートが弱いというのはどうか。たとえば商店街として何かしようとしたときに市のサポートがないというのはどうか。民間の力を借りようとしているのに、民間が自主的にしようとするに対して、サポートがゼロというのはつれないかなと思う。市のサポートはソフトの部分はもちろんですが、ハードの部分でも考えていただかなければ、民と行政と一緒に活性化事業はできないのではないかな。市の予算の部分なので、議会の人の理解もいるだろうけども、市の予算としては何を優先してお金を出すかということもあります。プライベートなことですいません。

(副委員長) その件については別途議会の方でお願いします。話しを戻しますが、一旦ここで出たご意見をワーキンググループで揉んでいただくということによろしいですか。

(副委員長) はい、ありがとうございます。ではそのようにしていただくということでお願いします。では、議題の2について事務局より説明を求めます。

(事務局) 資料4について説明

(副委員長) ご意見ございましたらお願いします。

(委員) この構想の北側がうちの団地の入り口にあたる。ここの防潮壁を全部ペイン

トします。こちらが先行して環境美化するので、この旧港の計画に一部取り入れてもらったらと意見を言ったが外れています。今のカンカンモールのあたりがなぜうまくいかなかったかという、この地域がぱっと見て、どういう地域かわかるものが必要。まず、このエリアの外周にはこんなものがあるというのを認識してもら。具体的にはランニングロードやサイクリングロードを外周で巻くなど。それがまずありきで、それを認識してもらったうえで、その中にこんな魅力的なものがあるという、そちらの方が大事ではないかと思う。岸和田はだんじりですから、この外周にだんじりロードを作っても良い。たとえば、各町順番に土日にだんじりを曳いてもらう。土日にここに来たらいつでもだんじりに参加できますよとするなど。構想の基本的なところを優先的に考えて欲しいというのが私の意見です。漁協さんの方で、海の駅とかがあります。そこへ商店街も相乗りしたり、農業関係も相乗りしたりする。岸和田の魅力を発信するときに、漁業も農業も工業もある。泉州一帯の中核都市で一番ブランドのものがだんじりです。人集めとしてだんじりがあります。だんじりは祭りの時期だけですが、たとえばここに来ればだんじりが年間通してありますよ。そのためにだんじりロード、ランニングロードがある。参考にしてもらえればと思います。

(副委員長) 漁協のお話も出ていますが、いかがでしょうか。

(委員) 交流ゾーンでマルシェを毎週開催しています。施策シートの5-5です。農林水産業の推進。実績のところですが、マルシェは漁業組合の開催であり、市は後方支援であるが、岸和田の漁業を広く市民に知ってもらう機会があり、臨海部の活性化につながるということです。マルシェは漁業者が集まって、自分たちでお金を出し合って開催している。地元で取れた魚を地元の人に知ってもらいたい。しかし、何かをしようとするれば土地もいる、施設もいる。国や市や府に頼んでいるが、支援がないとうまくいかない。国も力を入れてくれているが、市がもっと力を入れて欲しいと思っている。後方支援とはどういうことかを聞きたい。

(事務局) ご意見ありがとうございます。漁組さんが活動している場所が未活用地になっている場所がございますので、その活用を市としても支援して、国や府に働きかけられるようにこの構想を作っています。市としてこの場所を何とか活性化したい、賑わい化につなげたいということで、この構想を作りあげているところです。

(委員) しらす場の入札もしている。ゆくゆくは生の魚だけでなく、加工品を売ったり、みなさんに来てもらえるようにしたりして大きな施設にしたい。漁業者だけでは行き詰ってしまいます。市ももっと支援してほしい。ワーキンググ

ループでA、B、Cとあるが、産業は一次産業も二次産業もあって、一軒ずつ聞いていくと、予算が膨れ上がってしまいます。市がある程度これくらいの考えがあって、これくらいの予算を考えていますという話をしてもらわないと話が進まないと思う。

(副委員長) 石田委員はいかがですか。

(委員) 春木漁協、岸和田漁協、大阪府鰯巾着網漁業協同組合の3協で大阪府内の水揚げの7割を占めていましたが、今年から、しらす漁を営む漁師のすべてが地蔵浜で入札にかけられるようになりました。これで大阪府内の水揚げの9割を占めるようになったと思ってもらって結構です。それだけの税金が落ちるので、もっと本腰を入れて、府なり市なりがそれなりに力を入れてください。これからもよろしくお願いします。

(事務局) ご意見ありがとうございます。予算のこともそうですが、いろんな事業がございます。市役所内、議会の方々にもご理解いただきながら進めています。潤沢に予算があれば、当然進めることもできます。しかし、毎年限りある予算を選択、集中して進めている現状です。みなさんからいただいた意見を事務局でも議論し、また、市と関係機関の皆様方と一緒に実施していけるように努力していきたいと考えています。それと並行しまして、岸和田市は自治基本条例があり、市民協働の街にしようということで、何でもかんでも行政が先に立ってしていくという街ではないとなっています。市民、関係団体と行政が一緒になって街づくりをやっていくというものです。後方支援にしても、市が前面に立ってできる部分とできない部分があります。いろんな局面が出てきますが、皆様方と一緒に進めていきたいと思えます。それと、先ほど植野委員からご指摘いただいた事業についてです。ビジョンは全体の構想ですので、大きな風呂敷を広げるような形になりますが、細部の事業について、サイクリングロードを整備する話などは、この地域の活性化に必要であれば検討していけたらと思います。並行して具体的施策を進めるときにできたらと思います。

(副委員長) マルシェなどの取組に関してありましたが、JAさんが先んじて取り組んでおられて成果が上がっていると思います。それについてアドバイスなどがあればお願いします。

(委員) 行政として、国からのものはあるが、府や市のものはないというが、そのとおりだと思う。山手の丘陵地で直売所を作りましたが、口は出してくれたが、ちゃんとしてもらっていない。でも、産業活性化で浜手でそうするのなら、どこかを削って、まず何年間するというのを決断してもらわなければならない

い。やってもらおうということがあるならば、具体的にそのことを取り組んでもらわないと、いくらたっても進まないと思います。たまたま私どもはみなさんから協力いただいたから1万3千坪の土地でできたというのがあります。もうひとつは、第二段としてららぼ一とも出してあります。2年目で2億円の売上が出るところまで来た。しかし、まだまだ延びます。現状で300名くらい登録あるけども。こちらは出荷で800名、登録で1,300名愛彩ランドであります。ららぼ一とでは281社の業種が入っているので、帰りに買ってきているので大体認識されてきた。第二段目がららぼ一のAポートで、これをプラスすると早くても25億円の売上にはもっていかなければならないと思っている。しかし、何をすることも資金面が最初のときに必要。行政として、活性化するためには、どこかを削ったものをここに出費するというのを選択する。財政が苦しいと言っているといつまでたってもできない。ここはこうする代わりにここはカットするよという気持ちがないとできない。やる方も大きな決断を下さないといけないと思います。私どももここに来るまでに決断がありました。政治の関係でも苦労しましたが、それがあって今日がある。かなりの決断が必要ではないかと思います。もっとポイントを絞ったことをする方がいいと思います。私は山手のことしかわかりませんので、そちらの話だけさせてもらった次第です。以上です。

(副委員長) 大きな決断がいる。支援がいることは間違いないことですね。市民の立場からいかがですか。

(委員) 私は医療に携わっている人間です。ここまで医療の話は全く出てきていないなと思って聞いていました。岸和田には私どもの徳洲会病院と岸和田市民病院がある。市民病院の建物は平成8年5月に建てられており約20年がたっています。堺を例に出すのもどうかとは思いますが、堺は平成8年10月に建て、昨年平成27年7月に新しいものが建っている。医療の患者さんがどうとらえるかというところがある。うちで平日1,300人くらいの人がある。土曜日、日曜日は少ないですが、平均して900人くらいの人がある。当然市民病院も同じくらいの人がある。そういう人の波をここに持って来てもらいたいと思います。

(副委員長) いろいろご意見出たかと思いますが、他にございますか。

(委員) 先ほどのワーキンググループの件ですが、グループ分けのときに似たような業種ばかり集めているように思います。逆に、構想したときに、いろんな業種の人たちの意見を聞くのも有効な手段だと思います。これまで産業ばかり見ていましたが、医療の人の意見を聞いてなるほどと思いました。意見を聞くのに、よく似た環境の人たちを集めるのもひとつですが、もうひとつは

ろんな意見を混ぜてまとめるというやり方もあります。今後これをまとめる
ときにどういう構成にするかも考えたときに、これを参考にしてもらえたら
と思います。岸和田の漁港の水揚げが大阪府内の7割という話がありますが、
岸和田の製造業の売上のかなりの部分をうちの鉄工団地で占めている。農産
物、海産物を別々に販売するのか、合同で販売して集客するのかなど。同じ
業界の人を集めるのもいい面と悪い面があります。今後進める上で、どうい
う形の意見の聞き方をするかをもう一度考えて欲しい。

(事務局) 専門分野の方々に集まっていただいて、重点的に議論していただくというの
が最初の趣旨です。今のご意見では、他分野の方々にもご指摘をいただける
部分があるということです。たとえば、ワーキングを進めていく中で、A、
B、Cのグループに、中間段階か最終段階かはわかりませんが、それぞれに
投げかけてみるという方法があります。こういう形で議論が進んでいるが、
これについてどう思うかというのをまた違った角度からご意見いただく。シ
ャッフルする形で聞いてもらえるようにお願いできればと思います。

(委 員) 旧港周辺魅力づくりの構想案の6番目の中に、岸和田市全域との連携や波及
効果とあります。そこで、「人口減少や商業規模の縮小は市域全体の課題であ
り、将来に向けた対策が必要です。そこで、岸和田丘陵地区などの市内の様々
な資源と連携し、岸和田旧港地区周辺での取り組みが市域全体の活力の増進
への波及効果となることが重要です。」という文面の中で、丘陵地区の様々な
資源とはどういうものを指しているのか。

(事務局) 丘陵地区で開発を進めている工場、もしくは愛彩ランドなど。これから生み
出される資源も含めて連携と書いております。

(委 員) そこと旧港地区との連携というとは具体的にはわからないということですね。

(事務局) 貴重な意見ありがとうございます。具体的には書いていないということです。

(委 員) 言葉で文章をまとめたということですね。ありがとうございます。

(副委員長) 他にご意見いかがでしょうか。

(委 員) 事務的なことですが、この構想案は市の中で揉んだものですね。よくあるの
は、まちづくりの研究所等に頼んで作ってもらったりしますが、それではな
いんですよね。このゾーンは、2つのエリアをひっつけているような印象があ
る。住商さんのところと漁協を無理にひっつけている感じがある。漁協なら
漁協だけに集中してこのビジョンを描く方が明確で良い。かつ、大阪湾でナ

ンバーワンだとうたっていくなら風向きが変わるかもしれない。要は描き方だと思えます。こっちのゾーンと交流という段階で、ボケたなと感じます。これはこの2つのゾーンを結びつけなければならないという計画なので、仕方ない面はあります。しかし、事業と住まいが明確に違う。漁協は事業です。こちらは住まいです。住まいといってもスポーツレクリエーションゾーンとかがあるので、住まいかといえば違うかもしれませんが。かつ、このエリアはやや分断されている都市区域です。その整合性を考えると、後々難しいなど。これは会計で見たときにわかりにくい。収入がいろいろあって、費用がそれぞれある。たとえば、サービス業なら8割粗利率、製造業なら3割が粗利率と言われています。それがミックスされている。仮に開発でお金を使ったときに、どこで儲かったか、どこで儲かっていないかがわからない。事業性を考えたときに非常に評価しにくい事業です。事業性をある程度束になって評価できるようにしておいた方がよい。たとえば、文化交流は社会事業なので儲けは考えにくい。採算ベースで考えたときに、この絵は会計的には非常にわかりにくい。シンクタンクなどに頼めば、また違う絵が出てくるのかもしれませんが。漁業関係への支援ならば、それを前面に出した方がいいかなと思えます。ある程度計画で進んでいることなので、今から言っても難しいところではあります。やることと評価することは、ループしないといけない。これを逃してしまうと、評価が出来ない事業は、ほったらかしになる。たとえば、建物や橋を作ったときに、50年や30年で補修しないといけない。しかし、これから人口減少になるにも関わらず、評価しないとほったらかしの橋がたくさんできてしまう。それではいけないですね。ここで投資したお金が30年で再投資、もしくは評価しないといけない。会計に戻すと、それがぐちゃぐちゃしているなと思えます。その辺を考えていく必要があるのではないかと思います。こちらに言っていただければお手伝いもさせていただきます。

(副委員長) ありがとうございます。現在パブリックコメント実施中ということで、委員さん方も是非出してください。これは構想ですので、次の段階で実施計画が上がってくるのでは。そちらの計画をみていただければと思います。一旦、構想については原案のとおり進めていってよろしいでしょうか。また、実施計画の段階で意見をいただければと思います。

(委員) もうひとついいですか。冊子の17ページの図にあるとおり、文化事業と漁協の矢印で、協働ができればおもしろいと思います。意識的に書いているのであれば、深みのある図です。

(副委員長) この図が実際にそうなるようにすすめていただければと思います。では、その他で、何かございましたらお願いします。よろしいでしょうか。では一旦

事務局にお返しします。

(事務局) 次回日程調整

(副委員長) では以上を持ちまして岸和田市産業活性化推進委員会を終了します。ありがとうございました。

(以 上)